

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 19 日現在

機関番号：18001

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2015

課題番号：24792565

研究課題名(和文) 地域住民の心身の健康とソーシャル・キャピタルとの関連及び地域支援介入モデルの構築

研究課題名(英文) Development of intervention and practical model of health promotion based on the evidence of the relationship between social capital and health among community dwelling people

研究代表者

豊里 竹彦 (TOYOSATO, Takehiko)

琉球大学・医学部・准教授

研究者番号：40452958

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)： 地域におけるソーシャル・キャピタルの醸成が住民の健康関連行動や主観的健康感に良好な影響を与えることが明らかとなった。また、職場におけるソーシャル・キャピタルが健康関連行動や離職予防に影響することが示唆され、地域住民の健康を維持・増進するには地域のSCのみならず、職場におけるソーシャル・キャピタルの醸成が重要であることが示された。

研究成果の概要(英文)： This study demonstrated the importance of social capital for health and health-related behaviors among community dwelling people. Furthermore, it is suggested that social capital in the workplace can improve health-related behaviors and prevent turnover on workers. In summary, it is important to develop social capital not only on region but also on workplace to maintain and improve health on the local residents.

研究分野：慢性期看護学

キーワード：ソーシャルキャピタル 生活習慣病 健康関連行動

1. 研究開始当初の背景

沖縄県は、1995年に世界長寿宣言がなされ、百歳以上の長寿者人口比が全国一位となっている。一方、栄養の偏り、運動不足やストレスなどにより、働き盛りの世代で、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病および精神疾患、いわゆる「5大疾患」が増加している。また、高齢化の進展に伴う認知症、寝たきりなど介護を必要とする人口の増加や医療費の増大などが問題となっており、その原因である生活習慣の改善が喫緊の課題となっている。

そうしたなか、「地域」の社会決定要因への働きかけによる「地域づくり」、とくに心理社会的環境要因である「ソーシャル・キャピタル」を基盤とした地域づくりが注目されている。ソーシャル・キャピタルとは、人々の強い信頼関係(地域連結性、社会的結束)、相互扶助の慣行(互酬性)や密度の高い人的ネットワークといった、人々の協力関係を促し、社会を円滑・効率的に機能させものである¹⁾。

心身の健康とソーシャル・キャピタルとの関連を検討した研究では、死亡率²⁾と犯罪率³⁾、肥満⁴⁾、心疾患⁵⁾、精神疾患⁶⁾や児童虐待⁷⁾など、ソーシャル・キャピタルが高い地域ほど、これらの要因に対して良好に作用することが報告されている。一方、これまでの心身の健康とソーシャル・キャピタルとの関連を検討した研究では、以下の課題点が指摘されている⁸⁾。1つは、研究のほとんどが欧米の研究であることである。心身の健康は、社会文化的な影響を受けることから、文化の異なる日本を含めアジア圏内での研究の蓄積が望まれている。2つ目は、これまでの研究は高齢者に焦点が当てられ、現在問題となっている生産年齢層における研究がなされてない。日本を含め、世界的にコミュニティー機能の衰退化が懸念されており、その健康への影響について、上記の課題点をふまえた、

エビデンスの蓄積が、地域健康施策を考える上で重要な資料となると考える。

そこで本研究課題では、20歳以上の地域住民を対象に、地域住民の心身の健康とソーシャル・キャピタルとの関連を検討し、ソーシャル・キャピタルを基盤とした生活習慣病予防や介護予防による地域支援介入モデルの構築を行うことを目的とする。

2. 研究の目的

(1) 研究1

本研究1では、地域住民の心身の健康と地域連結性や互酬性などのソーシャル・キャピタル(心理社会的環境要因)との関連を明らかにするとともに、健康・長寿に向けた地域支援介入プログラムの方策に資することを目的とした。

(2) 研究2

本研究2では、研究1の結果を基に職場におけるソーシャルキャピタルと労働者の健康関連行動や離職意向との関連を検討し、職場におけるソーシャルキャピタルを基盤とした包括的で実践的なヘルスプロモーションモデルの構築に資することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 研究1

対象と方法

沖縄県A町在住で20歳以上の住民うち、32行政区ごとに性別、10歳区分で30%無作為抽出した7,425人を対象に、郵送法による自記式質問紙調査を行った。回収の得られた1,271人(男性583人、女性688人)を分析対象とした。

調査内容は、基本属性、主観的健康や朝食、喫煙、飲酒、運動及び睡眠の健康関連行動およびソーシャル・キャピタルの測定には近隣信頼を設問した。分析は、Baronらの媒介モデルの分析手順に従い、独立変数を近隣信頼、従属変数を主観的健康、媒介変数を健康行動、年齢と学歴を調整変数とした多重ロジスティック回帰分析を行った。

(2) 研究2

対象と方法

沖縄県内の病床数が200床以上かつ療養型病床が50%以上の病院を除いた38施設のうち、了承を得られた24施設の看護師2595名を対象に留置き式自記式無記名質問紙調査を行った。2311名(回収率89.1%)の回答のうち、分析項目に欠損のあるものを除いた2135名を分析対象とした。

調査内容には、基本属性は性、年齢、婚姻状況、経済状況、就業状況、学歴、健康関連行動は、喫煙(毎日、時々:0、禁煙した、以前から吸わない:1)、食行動(朝食を食べない、ときどき食べる:0、ほぼ毎日食べる:1)、睡眠(6時間未満:0、6時間以上:1)、飲酒行動:(週に3~4日、週に5~6日、毎日:0、ほとんど飲まない、月に1~3日、週に1~2日:1)、運動(どのくらいの頻度で、運動やスポーツをしていますか:ほとんどしない、月に1~3日:0、週に1~2日、ほぼ毎日:1)を設問し、離職意向については、「あなたは、今までにこの病院をやめたいと思ったことはありますか。」など4項目、Work place social capital(以下、WPSC)は「一般的に、あなたの病院の職員は信頼できると思いますか。」の問いに5件法で解答を求め、信頼できない:0、信頼できる:1の2群に分類した。

分析は健康関連行動と離職意向を従属変数、WPSCを独立変数、基本属性を調整変数とするロジスティック回帰分析を行った。なお、統計解析にはSPSSver.20.0を使用し有意水準5%未満を統計的に有意とした。

4. 研究成果

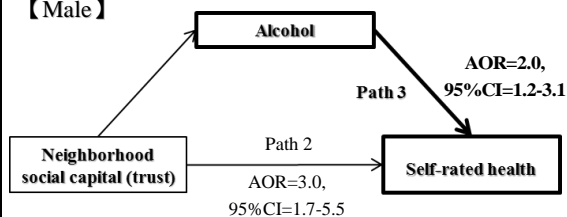
(1) 研究1

沖縄県A町在往で20歳以上の1,271人(男性583人、女性688人)を対象とした調査結果においても、BMIで評価した肥満度は男性の20-39歳の常勤で最も多く47.1%であり、女性では40-59歳の常勤で22.9%と最も多か

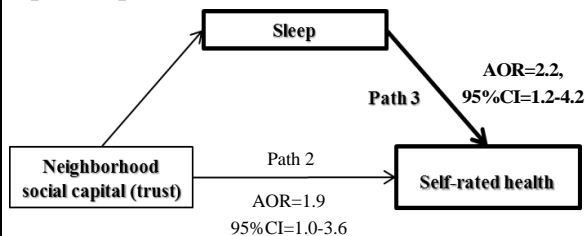
った。喫煙状況では、男性では20-39歳(30.9%)の常勤で最も多かった。また、アルコール過剰摂取者の割合は、20-39歳(52.9%)、40-59歳(56.2%)、60歳以上(58.0%)のいずれの年代においても常勤の割合が有意に高値であった。女性においてもその傾向は同様であった。IPAQで評価した運動量では、標準以下の運動量の割合は、男性では20-39歳(55.6%)、60歳以上(57.1%)で常勤の者で有意に高値であった。女性においても同様に20-39歳(70.0%)、60歳以上(66.7%)で常勤の者で高値であった。

近隣信頼と健康行動との関連では、男性は飲酒量(AOR=2.1, 95%CI=1.3-3.5)、女性は朝食(AOR=1.8, 95%CI=1.1-3.0)と睡眠(AOR=2.6, 95%CI=1.4-4.8)で近隣信頼と有意な関連を認めた。近隣信頼と主観的健康との関連では、男性(AOR=3.5, 95%CI=2.0-6.0)、女性(AOR=1.9, 95%CI=1.1-3.4)で有意な関連を認めた。直接効果に対する健康行動の影響は、男性では近隣信頼(AOR=3.0, 95%CI=1.7-5.5)と飲酒(AOR=2.0, 95%CI=1.2-3.1)、女性では睡眠(AOR=2.2, 95%CI=1.2-4.2)のみ有意な関連を認め、近隣信頼(AOR=1.9, 95%CI=1.0-3.6)は有意な関連を認めなかった。

【Male】



【Female】



本研究1の調査結果をもとに、対象地域の保健師との意見交換を行った結果、性別や世代によりSCの健康や健康関連行動への影響が異なることや特に生産年齢における職場でのSCの影響も考慮する必要があるという議論がなされた。また、近隣信頼が主観的健康に及ぼす影響は健康行動によって媒介され、男性では近隣信頼の直接的な影響と飲酒行動を介した影響、女性では近隣信頼の直接的な影響はなく、睡眠を介してのみ影響することが示唆された。

(2) 研究2

WPSCと喫煙との関連では、男性で有意な関連を認めなかったが(OR=1.4, 95%CI=0.98-2.07)、女性では有意な関連を認め(OR=1.9, 95%CI=1.33-2.71)、職場での信頼感がある者は喫煙行動が抑制されることが示された。WPSCと食行動との関連では、男性で有意な関連を認めなかったが(OR=0.98, 95%CI=0.70-1.42)、女性では有意な関連を認め(OR=1.5, 95%CI=1.27-1.87)、職場での信頼感がある者は朝食を欠食することが抑制されることが示された。WPSCと睡眠との関連では、男性で有意な関連を認め(OR=0.55, 95%CI=0.33-0.91)、職場での信頼感がある者は睡眠が良好であることが示された。一方、女性では有意な関連を認めなかった(OR=1.1, 95%CI=0.75-1.52)。WPSCと飲酒や運動との関連では、男女とも有意な関連を認めなかった。WPSCと離職意図との関連では、男女とも有意な関連を認め(男性:OR=0.39, 95%CI=0.27-0.56, 女性:OR=0.50, 95%CI=0.41-0.60)、職場での信頼感がある者は離職意図を有意に軽減することが示された。

本研究1と2の結果より、地域におけるソーシャル・キャピタルの醸成が住民の健康関連行動や主観的健康感に良好な影響を与えることが明らかとなった。また、職場におけるソーシャル・キャピタルが健康関連行動や離職予防に影響することが示唆され、地域住

民の健康を維持・増進するには地域のSCのみならず、職場におけるソーシャル・キャピタルの醸成が重要であることが示された。

<引用文献>

- 1) Putnam RD, Leonardi R, et, al. Making democracy work: Civic tradition in modern Italy. *Princeton: Princeton University Press*1993.
- 2) Weaver R, Rivello R. The Distribution of Mortality in the United States: The Effects of Income (Inequality), Social Capital, and Race. *OMEGA - Journal of Death and Dying* 2007; 54: 19-39.
- 3) Wilkinson RG, Kawachi I, et, al. Mortality, the social environment, crime and violence. *Social Health Illness* 1998; 20: 578-597.
- 4) Kim D, Subramanian SV, et, al. US state- and county-level social capital in relation to obesity and physical inactivity: a multilevel, multivariable analysis. *Soc Sci Med* 2006;63(4): 1045-1059.
- 5) Sundquist K, Lindström M, et, al. Social participation and coronary heart disease: a follow-up study of 6900 women and men in Sweden. *Soc Sci Med* 2004; 58: 615-22.
- 6) McCulloch A. Social environments and health: cross sectional national survey. *BMJ* 2001; 323: 208-219.
- 7) Alperstein G, Raman S. Promoting mental health and emotional well-being among children and youth: a role for community child health? *Child Care, Health & Development* 2003; 29: 269-274
- 8) 近藤克則、平井寛、他. ソーシャル・キャピタルと健康. *行動計量学* 2010; 37(1): 27-37.

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計2件)

Toyosato T, Nakada T and Koja Y.

Ryukyu Medical Journal. 35(1). 2016.
査読有り. in press.

Toyosato T, Takakura M. Ryukyu
Medical Journal. 査読有り. 33(1,3).
2014. 17-28

[学会発表](計4件)

Nakada T, Uehara R, Koja Y, Toyosato T,
Arakaki H, Tokashiki Y, and Hamada E.
Gender difference in the mediating
effect of social support on the
relationship between work-family
conflict and intention to leave among
nurses in Okinawa, Japan. The 2nd
International Conference on Caring
and Peace. Nov 7-8, 2015. Japanese red
cross college of nursing. Tokyo, Japan.

Toyosato T, Yokota T, Takakura M. Gender
Difference in the Mediating Effects of
Health-related Behavior on the Relationship
between Social Capital and Self-rated Health
in Okinawa, Japan: Mediation Analysis. 9 th
International Nursing Conference & 3rd
World Academy of Nursing Science. Oct
16-18, 2013. The-K Seoul Hotel. Seoul
Korea

Toyosato T, Takakura M. Generation
difference in relationships among social trust,
neighborhood trust, structural social capital,
and self-rated health in Okinawa, Japan. The
44th Conference of Asia-Pacific Academic
Consortium for Public Health. Oct 14-17,
2012. Bandaranaike Memorial International
Conference Hall Colombo, Sri Lanka.

Toyosato T, Iha Y, Chinen S, Taira K, Yokota
T. Relationship between individual-level
social capital and self-rated health among
community-dwelling elderly in Okinawa,
Japan: a cross-sectional study. The 43rd
Conference of Asia-Pacific Academic

Consortium for Public Health. Oct 20-22,
2012. Yonsei University. Seoul, Korea

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

豊里 竹彦 (TOYOSATO, Takehiko)

琉球大学・医学部・准教授

研究者番号 : 40452958